

高性能オイルレス軸受技術で 産業界の発展に貢献

三協オイルレス工業(株)代表取締役社長

中村 智氏(52歳)に聞く



Q 会社の概要を教えてください

当社は、1964年に先代の社長が独立して、東京都府中市でオイルレスメタルと機械部品の製造販売を始めました。現在は主に、自動車部品の生産設備向けプレス金型用のブシュやスライドプレートなどの摺動部品と、そのすべり機構を活用したプレス金型用カムユニットの製造と販売を手掛けています。

製造拠点は、国内が山梨県大月市にある大月工場と、山形県天童市にある山形工場の2カ所です。海外は欧州に3カ所、アジアに2カ所、北米と南米にそれぞれ1カ所あり、合計で9拠点を展開しています。

大月工場ではブシュとスライドプレートの生産と開発を、山形工場ではカムユニットの生産をしています。

Q 注力している分野を教えてください

ブシュやスライドプレートの基盤技術である固体潤滑剤を活かした材料開発に注力し、プレス金型用カムユニットのさらなる性能向上と多様な展開を目指しています。金型に使われるカムスライドは、境界潤滑下で衝撃的な荷重に耐える必要があります。主な材料は、高力黄銅系材料とアルミニウム青銅系材料で、独自のトライボ評価技術

を活かし、用途に合わせた材料開発を大月工場を進めています。高力黄銅系材料を用いた製品は耐摩耗性に優れた高荷重用として、一方アルミニウム青銅系材料を使用した製品は、高荷重で耐熱性が求められる摺動部向けの製品として提案しています。

大月工場には鋳物の工場があり、高性能トライボ素材を自社製造し、加工、検査、出荷まで一貫生産を行っています。

また、プレス金型周辺機材も扱っています。例えば、一般的なウレタンは高温多湿環境下で耐久性が低下しますが、そういった環境下でも強い緩衝材が欲しいというニーズに対し、新しいウレタンスプリングを提案しています。

Q 今後の展望は？

経営の中心が私に移ってから、高性能なトライボ技術に特化した事業をベースにして展開してきました。すなわち、固体潤滑技術として黒鉛材料技術を活かし、高性能銅合金技術と組み合わせることで、ロバスト性に優れ、より苛酷な高面圧条件、高温環境、水・海水環境下における耐摩耗性・耐焼付き性、耐腐食性の要求に応える材料を提案しています。

こうしたハイレベルな要求に応え、

トライボ技術を進化させることは、これからの時代に求められるサステナビリティにも応えることになると考えています。

当社はこれまで、自動車業界の変化に合わせて事業を展開してきました。日本の自動車メーカーが米国に進出した際には、当社の製品を販売するために米国に生産拠点を設け、顧客がアジアへ進出することに伴って、当社もタイと中国に現地法人を設立しました。そして、ブラジルに日本と欧州、米国の自動車メーカーが進出して大きな市場になると考え、2019年にはブラジルに生産拠点を展開しました。今後も自動車産業の発展の中で、ニーズを捉え、トライボ技術に特化した我々の技術を提案し続けていきたいと考えています。

10年前に第1次中期経営計画を策定し、いまは第3次中期経営計画が終わろうとしています。最初の計画を策定するときから頭にあったのが「質実剛健」という言葉でした。質素でシンプルで正しい行いをする。会社を経営する上で判断基準はそれだと思っています。一所懸命に仕事をしていても一所懸命に悪いことをやっていたはいけません。方向性を間違えずに、正しいことを着飾ることなく、質実剛健にやっていくことが大事だと考えています。